

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.11 令和2年12月3日

海洋教育写真コンテスト海の生き物部門入賞作品の紹介と講評その1

最優秀賞「てづくり すいぞくかん」 岬陽小学校1年 須藤遥斗（はると）さん

手作り水族館という発想がとても素敵です。広い海を背景に、世界で一番小さいであろう限られたペットボトルの中の自分だけの世界が重なり合って、海水のきらめきがより強調される面白い構図だと思いました。

強い日差しに照らされて、高い彩度と日差しの光が、真夏のイメージを強調しているところもポイントです。



優秀賞「おーい、ここだよ〜」 三崎小学校6年 小川莉央（りお）さん

フジツボのピンク色の輝きが、優しい気持ちを誘い出してくれます。奥に見える海の青さと鮮やかなピンクとの対比も良いですね。

ピント手前のフジツボに合っており、「見せたいものはこれだ」という気持ちが伝わってきました。手を振っているように見えるのは、エボシガイという貝の仲間だそうです。



優秀賞「カラフルなウミウシ」 名向小学校2年生 山垣凜夏（りんか）さん

コバルトブルーのアオウミウシとムカデノウミウシだけでなく、琥珀色のマツバガイを画面の半分以上に写し出していて、とてもカラフルな写真ですね。

生物の関わり合いの一瞬をとらえた、生き物部門らしい一枚だと思います。



優秀賞「たこみたいなひとでだよ」上宮田小学校1年 武田雪乃さん

クモヒトデは棘皮（きょくひ）動物で、ヒトデやナマコと同じ仲間になります。（ナマコも正面から見ると、五角形だと分かります）

コメントから、見たことがない生き物に出会ってびっくりして、しばらく後に興味を持って、この写真を撮影したと想像がつかしました。生き物の不思議に出会えた写真だと思います。

SDGsについて その9 “海藻おしば教室のめざすもの”

毎年、三浦市の学校がお世話になっている海藻おしば協会の野田三千代会長は「子どもたちに、海の森の大切さを伝えるには、まず海藻おしばが『きれい！』で『またやってみたい！』という感動を与えることが大切だと思います。作品作りがきっかけで、海藻と友だちになり、海藻の育つ海に関心が向き、海を汚さない意識につながると思います」と述べています。

三浦市では、既に8つの学校で、海藻おしば教室を実施しました。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、
学校教育課まで 882-1111（内線428）